

## めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

## 取組目標

**地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。**

## 【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で例年通りとはいかない状況でしたが、「田原の子どもたちは、田原に住むすべての人で育てる」という考え方にに基づき、これまで「交通安全立哨活動」、環境整備活動「どんごが丘整備作業」「田原ふれあい夢花壇」など児童生徒が安心・安全で心地よく学校教育に臨めるように、児童生徒とともに学習環境の整備に努めています。また、学習支援活動として、外国語の授業補助「外国語科授業支援」、放課後の学習支援「田原学び舎プロジェクト」、地域に伝わる伝統文化の継承「祭文踊りの指導」を行いました。

キャリア教育の一環として行う「職場体験」「田原合同大運動会」や、文化鑑賞会・人権講演会の共催などは、今年度行うことが出来ませんでした。学校の取組を地域に周知するための、多くの機会を設定し地域人材を発掘し、次年度はまた、地域人材を活かした支援を行っていききたいです。



## 【今年度のまとめ】

田原は、豊かな自然や伝統文化を地域の努力によって現在にまで引き継いでいる地域です。これまで学校では「よく考え、よく学び、進んで実行できる児童生徒」「思いを伝えあい、人とのつながりを大切にする児童生徒」「ふるさとを愛し、誇りとする児童生徒」の育成を目標に、様々な活動に取り組んでいます。地域教育協議会では、人材の育成が大切であると考え、学校の教育活動を支援してきました。今年度は、テーマを定め、地域と学校がそれぞれの考えの共有できるように地域教育協議会で話し合ってきました。未来を生きる子どもたちに付けたい力を今後も共に考え、学校とともに「田原の教育」がさらに充実したものなるよう取り組みたいと考えています。

## 【来年度に向けて】

近年、田原地区では少子化・高齢過疎化が一層すすんでおり、学校においても、それにとまなう児童生徒数の著しい減少がみられますが、令和2年度から奈良市特認校制度により、田原小中学校に他校区の子どもが就学することができるようになりました。田原小中学校の特色ある取組を深めるとともに、内外にそのよさをアピールし、地域、学校がより魅力あるものになるよう、地域と学校が連携協働した事業の運営を進めていきます。

## めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

## 取組目標

**地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。**

## 【今年度の取組紹介】

田原小中学校では、施設一体型小中一貫教育校としての特性を生かし、前・中・後期の各ブロックの発達段階に応じた特色ある活動に取り組んでおり、児童生徒は上級生をモデルとすることで、おのずとブロックの中でリーダーとしての素養が育成されています。今年度は、新型コロナウイルス感染症により、縦割りの活動ができなかったのですが、下級生たちは上級生を見て、きちんと成長を遂げています。



今年度は、職場体験学習を実施することが出来ませんでした。県の職業能力開発協会にお願いし、5年~8年生対象の「熟練した技能者による体験教室」を開催しました。この体験教室に、地域で活躍されている表具師さんとの出会いが「卒業制作 ベンチプロジェクト」につながりました。校内の憩いのスペースに、9年生や8年生の手作りベンチが増えていく・・・楽しみです。



## 【今年度のまとめ】

学校では、「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」ことを学校教育目標に据え、教育活動を進めてきました。

これまで、地域と学校の間では、教育目標の実現に向けて多くの意見交流を重ねながら、活動支援にあたっていただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症により地域の方々との活動が制限されましたが、やはり、大切なことは、学校と地域とのつながりを強化し、地域の学校教育への関心を一層高めることが大切であると考えています。

## 【来年度に向けて】

今年度も、多くの地域の方々のご協力によって、取組を進めることができました。一方で、今後の活動の継続に向けて、コーディネーターやボランティアスタッフの高齢化が問題となっています。また、学校・地域との交流を通して、少子化・高齢過疎化という学校・地域の抱える共通の課題解決に向けて、取り組む必要性について、改めて確認することができました。今後は、より多くの方々に積極的に関わってもらえるよう、事業内容の工夫や、参画・運営方法の改善を図るとともに、特に保護者世代への呼びかけを積極的にすすめることで、学校・地域の活性化につなげていきたいと考えます。

## めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

## 取組目標

**地域・家庭・学校が一つとなって、めざす子ども像に向かって  
田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。**

## 【今年度の取組紹介】

年度当初の学校閉鎖期間の影響で、全日授業が再開された後も、低学年6時間授業・高学年7時間授業を行い、遅れを取り戻す日々が続き、児童の体験学習の取組は難しい状況でした。今年度は、十分な取組を行うことができませんでした。田原小中学校の9年間を見通したキャリア教育を次年度も続けて行きたいと思えます。



小学校では、状況を見ながら少しずつ活動の幅を広げ、1学期中には、2・3年生校区探検（太安万侶の墓）、2学期には3・4・5年生が稲刈り体験などの活動を密に注意しながら一部の事業は再開しました。このような状況下においても、地域の現状や課題に深く目を向ける姿勢を培っていきたくと考えています。5・6年生は中学1年生にあたる7年生・8年生とともに、職業教育の一環として、「ものづくり教室」を体験しました。「美容」と「建具製作」のグループに分かれヘアカット・写真立て製作を体験しました。職業体験・地域の産業を学ぶ“ふるさと（たわら）”次年度も学んでいきます。

## 【今年度のまとめ】

田原地区は豊かな自然や伝統文化が地域の方の努力で現在にまで引き継がれてきています。小学校は「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」そして、子どもたちが気付いた田原の魅力を発信する取組を様々な方の力を借りながら行っています。また、中学校と施設一体型の中小一貫教育校の特色を生かし、中学生の取組を参考に、今、自分たちのできることを考え、取り組んでいます。このことが地域を支える次の世代の人材育成につながると考えています。

そのためには、地域と学校が連携協働して、子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ヒト・モノ・コト」のかかわりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組を進めることが大切であると考えます。

## 【来年度に向けて】

これまでの取組を継続し、充実した取組になるように改善を図っていきたくです。令和2年度から奈良市特認校制度により他校区の子どもが田原小中学校に就学することができます。田原小中学校の特色ある取組を進めるとともに、内外にその魅力をアピールし、地域と学校が連携協働した事業の運営を行っていきたくです。